

1T-7

# パーソナルコンピュータを用いた マルチメディア・アルバム

加藤 誠巳 飯村 伊智郎 菊池 新 越沼 康明  
(上智大学理工学部)

## 1 まえがき

アルバムに単に写真を貼るだけでなく、その写真と関連したコメントやパンフレット、チケットなどを一緒に貼り付けると、見たとき得られる情報量は飛躍的に増大する。また企業においては、社員を文字情報だけでなく顔写真などの画像と統合して、よりグラフィカルな人事管理を行なうようになってきている。

本システムは、アルバムという概念をコンピュータ上で想定し、音声や動画のデータを加えることで、上述したような機能をさらに発展させたものであり、これを”マルチメディア・アルバム”と名付けた。本稿ではこのような人物と文字・音声・静止画像・動画の情報を組合せて蓄積し、またそれらを提供する環境をパーソナルコンピュータ PC-9821 の Windows3.1 上で実現した結果について報告する。

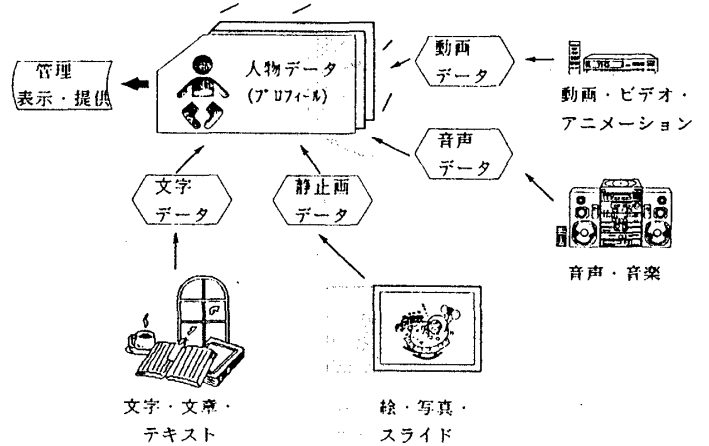


図1 マルチメディア・データの統合

## 2 システムの構成

本システムのデータ管理は、基本的に人物単位で行なっている。図1に示すように、初めはプロフィールのみを持っている人物データの中に、各メディアのデータを蓄積していく手法を取っている。よって、このシステムは、人物データをもとにデータを構築していくデータ構築部と、構築したデータを表示するデータ提供部とで構成される。

### 2.1 データ構築部

データ構築部において、ユーザは、写真・コメント・音声などのデータとそれぞれ適当な人物データとのリンクを行なう。図2は、その一例で、ビットマップファイルの一覧から各ファイルを参照し、目当てのデータを探し、それを人物データに登録しているところ

ろである。登録されたデータは、常に画面上部中央のリストボックスに表示されているので、簡単に参照・削除することが可能である。



図2 データ構築の例

### 2.2 データ提供部

データ提供部において、ユーザは、作成されたデータを、マルチメディア・アルバムとして表示・提供することができる。本システムは、Windows3.1のMDI

(マルチ・ドキュメント・インターフェイス)仕様を用いることで、人物データの複数表示を、容易に行なうことができる。図3は、その一例であり、二枚の人物データ表示用ウィンドウとビットマップ表示用・動画表示用・ビットマップ+文字表示用ウィンドウをそれぞれ一枚ずつ表示している。

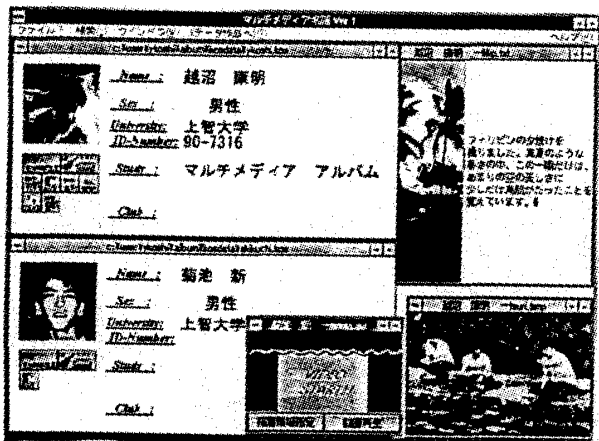


図3 データ提供の例

### 3 システムの特徴

本システムは、次のような特徴を有している。

**マルチメディア 文字・音声・静止画・動画**といった各メディアを単体で人物データにリンクするだけでなく、組み合わせて一つのデータとして取り込むことが可能である。これにより、ある写真に文字でコメントを入れ、さらに音声で解説を加えたり、BGMとして、その写真に合った音楽を演奏させたりすることが可能である。

**顔写真からの検索** 図4に示すように、全ての人物データの顔写真をMDIによって表示し、そこから目的の人物データを選択するものである。

**集合写真と対応した人物データとのリンク** 数人の人が写っている写真に、ホットポイントを設け、各ホットポイントに対応した人物ファイルを設定することができる。このような設定をした写真上のそのホットポイント付近でマウスをクリックすると、そのホットポイントに対応した人物データの窓が開く。図5は、ホットポイントを設定している画面の例を示している。

**グループの設定と表示** 本システムは、関係のある人物同士のデータをまとめたグループ単位の管理

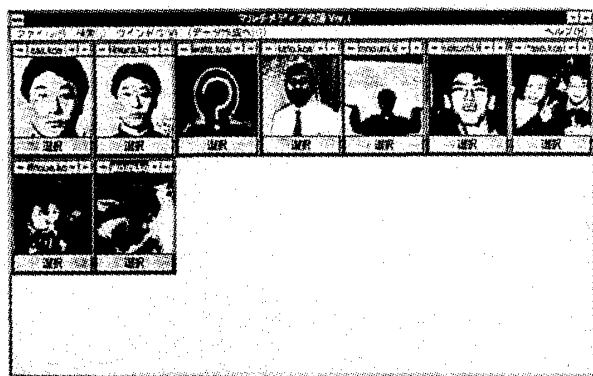


図4 顔写真からの検索

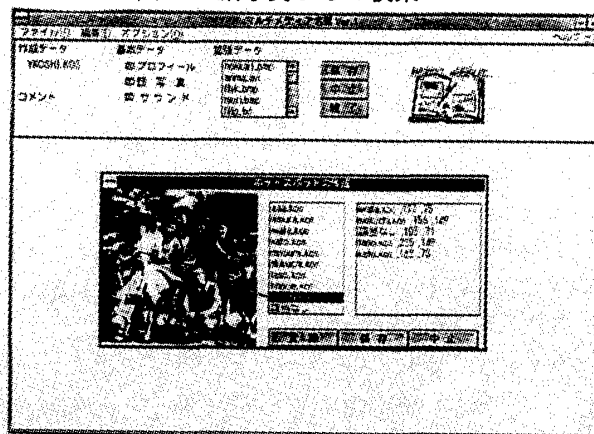


図5 ホットポイントの設定

も可能である。グループでの表示を行なった場合、そのグループに登録した全ての人物データの窓が開く。

### 4 むすび

マルチメディア・アルバムの概要について述べた。記憶装置の大容量化、情報圧縮技術の進歩、フォトCDの登場などで、今までパーソナルコンピュータでは、扱いにくかった膨大な画像データが身近になり、処理も容易になってきた。今後、さらに、このようなマルチメディア関連の技術が進歩していくものと思われる。そうしたとき、本システムのさらに効果的な利用が期待される。

最後に、有益な御討論をいただいた本学マルチメディア・ラボの諸氏に謝意を表する。